

序 文

上ノ国町は、北海道夜明けの地として多くの文化財を有し、その中でも史跡となっている花沢館・勝山館・洲崎館の三館跡は、北の中世史において重要な役割を担っていたことが知られ、長い時代を経て今に受け継がれています。

しかし、近年、少子高齢化や過疎化による人口減少、地域社会の変化や価値観の多様化などにより、長い歴史の中で伝えられてきた文化財を次世代に継承していくことが困難になりつつあります。

そのため、町内にある様々な文化財を指定の有無や類型にかかわらず、周辺環境も含め適切に把握し、本町の歴史や風土なども踏まえ、長期的な視野で計画的な保存活用を目的とした基本的方針である「上ノ国町歴史文化基本構想」を策定いたしました。

また、町内にある文化財をはじめ、貴重な歴史文化遺産を洗い出し、これらを時代別・ジャンル別・地域別に整理し、関連文化財群として面で捉え、歴史文化保存活用を推進するための体制づくりとともに、地域づくりや観光産業における地域資源として活用し、地域の歴史文化を活かしながら、まちづくりにつなげていくものであります。

本基本構想は文化財行政のみならず、まちづくりや地域づくりに係る諸部門と連携のもと、町民自らが地域に対する「誇り」を醸成し、歴史文化を活かした地域づくりを通じて、美しい道南の原風景が広がる上ノ国町の歴史文化を愛すると共に、未来に向けて継承していく事の思いを込めて策定いたしました。

本基本構想の策定にあたり、ご審議いただきました上ノ国町歴史文化基本構想策定委員会委員、調査部会委員の皆様をはじめ、関係機関の皆様に多大なご尽力を賜りましたことを心より感謝いたしますとともに、今後とも皆様の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

平成30年3月

上ノ国町教育委員会

教育長 矢代 智 樹

例 言

1. 本書は、平成 28・29 年度に国庫補助を受け実施した上ノ国町歴史文化基本構想策定事業の成果をまとめたものである。

2. 本書の編集は、文化庁（地域文化創生本部）、上ノ国町歴史文化基本構想策定委員会・同調査部会の指導・助言に基づいて事務局で行なった。

3. 執筆は分担して行い、Ⅰを田才雅彦（策定委員長）、Ⅱの「2.（1）地形・地質、（2）気候・気象」を小岩直人（策定委員）、「2.（3）植生」を小林和貴（策定委員）、米倉浩司（オブザーバー）、「3.（2）①②」を榊原滋高（策定委員）、「3.（2）③」を若松啓文（策定委員）、その他を事務局で行った。

4. 史料の引用については、読み下し文を基本とし、原文の掲載は必要最小限にしている。

■ 本文目次

序／例言／本文目次／あとがき／引用参考文献

I 歴史文化基本構想の概要	1
1. 歴史文化基本構想の目的.....	1
2. 上ノ国町の施策と歴史文化基本構想.....	1
(1) 上位計画及び関連諸計画.....	1
(2) 歴史文化基本構想策定の背景.....	2
(3) 歴史文化基本構想策定委員会・調査部会の設置.....	3
(4) 上ノ国町歴史文化基本構想策定委員会の方針.....	4
II 上ノ国町の概要	6
1. 社会的状況.....	7
(1) 人口の現状と推移.....	7
(2) 産業.....	9
(3) 土地利用.....	9
(4) 観光.....	10
2. 自然的特徴.....	11
(1) 地形・地質.....	11
(2) 気候・気象.....	19
(3) 植生.....	24
(4) 動物・昆虫.....	31
3. 歴史的特徴.....	33
(1) 先史.....	33
(2) 有史.....	35
(3) 上ノ国町の年表.....	57
III 上ノ国町の文化財	63
1. 過去の調査について.....	63
2. 指定文化財の概要.....	64
3. 6類型の文化財.....	68
(1) 有形文化財.....	68
(2) 無形文化財.....	71
(3) 民俗文化財.....	72
(4) 記念物（史跡・名勝・天然記念物）.....	73
(5) 文化的景観.....	76
(6) 伝統的建造物群.....	76
4. 文化財保護の課題.....	77

Ⅳ 上ノ国町のマイ文化財調査の成果	78
1. 調査方針.....	78
2. 調査経過.....	78
(1) 世代別マイ文化財調査.....	78
(2) 方面別調査.....	80
(3) 上ノ国高校生によるマイ文化財かるた.....	83
3. 調査成果.....	84
(1) マイ文化財一覧.....	84
(2) 上ノ国町らしい文化財類型の設定.....	116
(3) マイ文化財分布表.....	117
Ⅴ 関連文化財群の設定	125
1. 上ノ国町の歴史文化の特徴.....	125
2. 関連文化財群の構成.....	126
3. 関連文化財群の内容.....	127
(1) 天の川が育む“風の国”.....	127
(2) はじまりの地“神の国”.....	130
(3) せんずけの海“渡りの国”.....	133
Ⅵ 関連文化財群の総合的な保存活用と課題	137
1. 基本方針.....	137
2. 歴史文化保存活用区域設定の観点.....	137
3. 歴史文化保存活用区域における取組みと実施計画.....	139
4. 保存活用計画の考え方.....	140
5. 保存活用を推進するための体制づくり.....	140
6. 構想推進の課題.....	142
(1) 構想の推進にあたり.....	142
(2) 歴史文化基本構想策定後の効果の確認と改訂.....	142
資料	
[資料1] 上ノ国町歴史文化基本構想策定委員会設置要綱.....	144
[資料2] 上ノ国町歴史文化基本構想フォーラムの実施.....	145
〈引用参考文献〉	147

I 歴史文化基本構想の概要

1. 歴史文化基本構想策定の目的

文化庁文化財部が平成24年に示した『「歴史文化基本構想」策定技術指針』では、歴史文化基本構想を「地域に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて、的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための構想」としている。

上ノ国町では、これまで行政が主導して指定文化財を中心とした文化財の保存活用を推進していたが、近年の急激な都市部への人口流出・少子高齢化による担い手不足で、町内に所在する指定・未指定文化財が継承の危機に瀕している。

そのため、この指針に沿って地域の人たちが主体となり、周辺環境まで含めた地域の文化財の調査を行い、それらを元に上ノ国町らしい「歴史文化基本構想」を策定することとした。

2. 上ノ国町の施策と歴史文化基本構想

(1) 上位計画及び関連諸計画

「上ノ国町歴史文化基本構想」は、町が策定している「第5次上ノ国町総合計画」（平成22年度～平成31年度）、「上ノ国町人口ビジョン」（平成28年3月策定）、「上ノ国町教育振興基本計画」（平成22年度～平成31年度）、「上ノ国町地域防災計画」（平成27年3月策定）、「上ノ国町健康増進計画・食育推進計画」（平成29年3月策定）との整合性を図りながら策定を進めた。

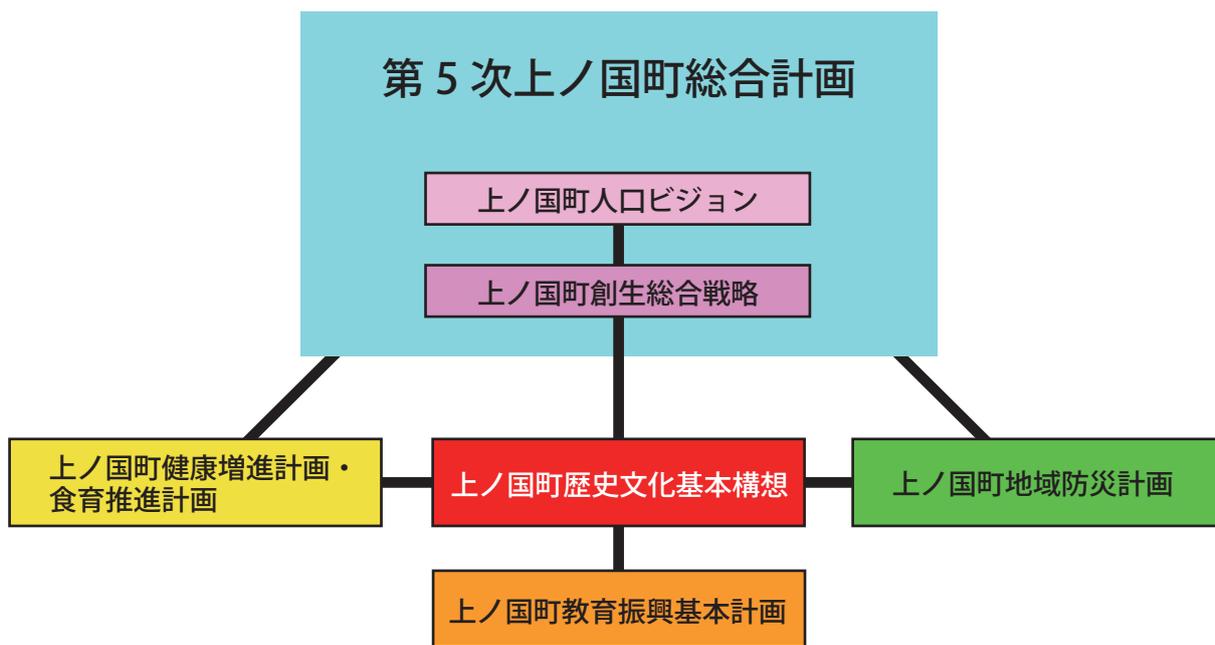


図1 諸計画模式図

「第5次上ノ国町総合計画」は町の最上位計画で、基本構想・基本計画・実施計画の3つで構成されている。その中では、地域文化の保存・伝承・活用について「北海道でも類をみない歴史的風致地区の保護・保存を図り、「上ノ国館跡保存管理計画」（平成23年3月策定）に基づいた史跡の保存・整備と無形民俗文化財の伝承に努め、これらの総合的な活用を推進する」と位置付けている。

「上ノ国町人口ビジョン」は、人口減少に向けた町の将来像を示すことを目的とし、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎となるものである。

「上ノ国町創生総合戦略」は、「上ノ国町人口ビジョン」を踏まえ、人口減少と地域経済縮小の克

服、まち・ひと・しごと創生の確立を目指すものである。地域文化の保存・伝承・活用の推進としては、展示施設の入館者及び文化財普及啓発講座における参加者の目標値を設定している。

「上ノ国町教育振興基本計画」では、文化財の保護と活用の重点として①文化財の調査研究・保存保護、②資料の公開活用、③文化財を生かしたまちづくりの3点を提唱し、6項目の具体的な施策を記載している。

「上ノ国町地域防災計画」の文化財保全対策は、「文化財の所有者並びに管理者は常に当該指定物件の保全、保護に当たって災害が発生した際、町教育委員会に被災状況を連絡するとともに、その復旧に努める」としている。教育委員会は、町が所管する指定文化財及び文化財普及活用施設に自動火災報知機や消火器を設置し、関係職員を対象に毎年消火訓練を行い防災意識の高揚に努めている。

「上ノ国町健康増進計画・食育推進計画」は、誰もが健全な生活を送ることができるよう健康・食育の両分野の計画を一体的に推進することを目的としている。

計画では家族形態の変化や地域とのつながりの希薄化、食の欧米化等を背景に、これまで地域で継承されてきた郷土料理をはじめ、季節の行事に合わせた食事などの食文化が失われつつあることから、これらの食事の伝統を継承する必要性を示している。

(2) 歴史文化基本構想策定の背景

上ノ国町では、昭和52年4月12日の「花沢館跡」「勝山館跡」の史跡指定を受けて、昭和54年度から主に「勝山館跡」の整備に取り組み、公開活用を図ってきた。

また、重要文化財の「旧笹浪家住宅」（平成4年1月21日指定）、「上國寺本堂」（平成5年4月20日指定）、「北海道上之國勝山館跡出土品」（平成20年7月10日指定）についても、それぞれ保存修理及び公開活用を続けている。

また、平成18年3月31日に、長年の課題であった史跡「上之國館跡」の指定（「花沢館跡」と「勝山館跡」に「洲崎館跡」を追加・統合し名称変更）が実現したことから、平成23年3月に保存管理計画を策定した上で、新たな整備計画の策定を検討したところである。

一方で、「福山街道（藩主祖廟詣での道）」の歴史の道百選、「天の川と戦国時代の山城を訪ねるみち」の新日本紀行歩く道・文化の道100選など、文化財の扱いが点から線や面へと広がっていることや、これまで把握が十分でなかった自然・景観分野との融合を図る必要性もあり、改めて町民に「我がまちの文化財」について問いかける調査を行い、その総合的な把握に努めることとした。



史跡上之國館跡（勝山館跡）



史跡上之國館跡（洲崎館跡）



天の川と戦国時代の山城を訪ねるみち



重要文化財旧笹浪家住宅（主屋・土蔵）

（3）歴史文化基本構想策定委員会・調査部会の設置

本構想を策定するにあたり、町内外の有識者を中心としたメンバーで組織した「上ノ国町歴史文化基本構想策定委員会」（以下、「策定委員会」という）を要綱に基づき、設置した。

また、地域の文化財を幅広く調査する目的で、町内の有識者を中心とするメンバーで構成された「調査部会」を置いた。策定委員会・調査部会及び事務局の構成員は、以下のとおりである。

● 策定委員会

役職	氏名	分野	所属
委員長	田才 雅彦	文化財・考古学	文化財サポート
副委員長	神長 敬	まちづくり・都市計画	株式会社 KITABA
委員	会田 理人	民俗学（産業・漁業史）	北海道博物館
	岩田 靖	まちづくり	上ノ国観光ガイド協会
	奥野 良廣	地域文化財	上ノ国町文化財保護審議会
	京谷 作右衛門	地域文化財	上ノ国町文化財保護審議会
	小岩 直人	地質学	弘前大学教育学部
	小林 和貴	植物学	東北大学植物園
	榊原 滋高	考古学	五所川原市教育委員会
	矢代 智樹	文化財行政	上ノ国町教育委員会
	若松 啓文	文献史学（中世史）	青森県県史編さんグループ

● 調査部会

役職	氏名	分野	所属
部会長	岩田 靖	まちづくり	上ノ国観光ガイド協会
副部会長	久末 元	大留地区	味処夷王亭
部会員	北村 克夫	地域文化財	上ノ国町文化財保護審議会
	品田 俊子	汐吹地区	女性団体連絡協議会
	下倉 幸一	石崎地区	早川地区生涯学習推進会議
	新谷 孝志	観光行政	上ノ国町役場水産商工課商工観光グループ
	竹内 宏	まちづくり行政	上ノ国町役場総務課地方創生推進室

	谷口 博文	まちづくり行政	上ノ国町役場総務課企画統計グループ
	平田 文友	地域文化財	上ノ国町文化財保護審議会
	丸山 由美子	宮越地区	女性団体連絡協議会
	三浦 幸一	湯ノ岱地区 (H29 年度)	湯ノ岱地区生涯学習推進会議
	森永 一	湯ノ岱地区 (H28 年度)	湯ノ岱温泉管理人

● オブザーバー

氏 名	分 野	所 属
浅野 啓介	文化財行政	文化庁記念物課
玉川 法之 (H28 年度)	文化財行政	北海道教育庁文化財・博物館課
浅野 裕司 (H29 年度)	文化財行政	北海道教育庁文化財・博物館課
能城 修一 (H28 年度)	植物学 (木材)	明治大学黒曜石研究センター
米倉 浩司 (H29 年度)	植物学 (分類)	東北大学植物園

● 事務局

上ノ国町教育委員会事務局文化財グループ 森良貴 (～平成 28 年 12 月 31 日)、塚田直哉、野崎真丈、飯浜幹広 (平成 29 年 4 月 10 日～)

(4) 上ノ国町歴史文化基本構想策定委員会の方針

策定委員会では、「歴史文化基本構想」を“文化として一定の価値が認められた「文化財」”を“時代の中で変化し続ける「文化」”の中で今後の地域づくり・まちづくりに活かし、私たちの日常生活を司馬遼太郎の言う「くるまれていて安らぐもの・楽しいもの」にしていく手段になるものと位置付けた (司馬 1994)。

本構想では、従来の文化財保護法で定義されている「有形文化財」「無形文化財」「民俗文化財」「記念物」「文化的景観」「伝統的建造物群」の 6 類型の中で保存活用が検討されてきた「文化財」を地域の中で一体的に関連づけ、さらに地域住民が主体となって総合的に活用することが求められている。

そのため、策定委員会では地域住民自らが地域の文化財を活かし、新たに「くるまれていて安らぎ・楽しい地域づくり・まちづくり」を進めることを期待しつつ、以下の基本方針を立てて構想策定に望んだ。

- ア) 上ノ国町の文化財を調査するにあたり、調査部会が下記地区及び各世代 (大人・高校生・中学生・小学生・保育所児童、外部大学生) を対象として、それぞれが抱く“我が町にとって大事な文化財とは何か”の調査を行う。
- イ) 各人が挙げた“我が町にとって大事な文化財”を「マイ文化財」と命名する。
- ウ) 「マイ文化財」を集約・整理して、“上ノ国町らしい文化財類型”として分類する。
- エ) 「マイ文化財」を基に、地域住民が持続的に保存活用することが可能な「関連文化財群」を設定する。
- オ) 「関連文化財群」の内容・広がりに応じた「保存活用区域」の設定、「保存活用の方針」を策定する。
- カ) 上ノ国町内の各集落を以下のとおり地区区分する (図 2 参照)。

区分	地区名	字名
中央	上ノ国	上ノ国・大澗・勝山・大留・向浜・北村・内郷
山方面	中須田	中須田・新村・豊田
	桂岡	桂岡・小森・早瀬・宮越
	湯ノ岱	湯ノ岱
	神明	神明・膳棚
海方面	原歌	大崎・原歌
	木ノ子	木ノ子・大安在
	汐吹	汐吹・扇石
	石崎	石崎・早川
	小砂子	小砂子

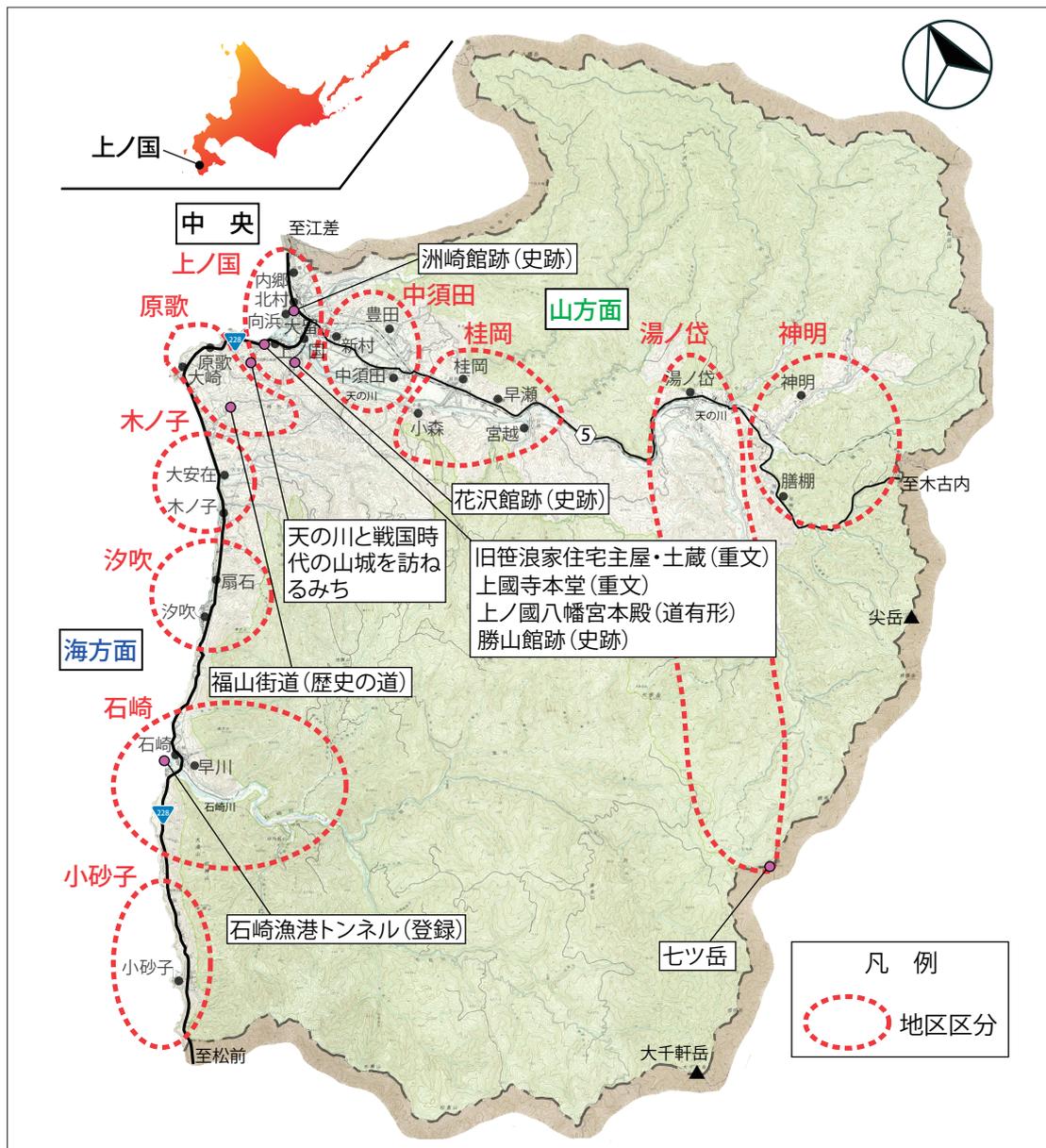


図2 上ノ国町の地区区分と主な文化財の位置